

【プログラム名】

◎子どもとのかかわり方を考えよう

家庭教育支援ガイドブック「自立した子を育てる 親のかかわり方」

1 プログラムの準備等

○適切な実施時期：いつでも

○実施時間：約50分（説明5分、プログラム45分）

○対象：児童期（小学校中学年～高学年）の子どもと保護者

○準備物、配布物

【配布物】※ファシリテーターの指示で配布

- ・家庭教育支援ガイドブック「自立した子を育てる 親のかかわり方」
- ・家庭教育支援プログラムワークシート

【備品】

- ・ホワイトボード等

○その他（座席など）

- ・特に指定なし



2 展開例（15:00～15:50 に実施の場合）

| 時間 | プログラムの内容 | ポイント 等 |
|-----------------|---|--|
| 15:00～ (5分) | ○開会 ・ファシリテーターあいさつ、自己紹介 ・今日の講座の趣旨と流れの説明 | ・ファシリテーター2名（進行役と板書／配布係） ・日頃のかかわり方を振り返り、かかわり方のヒントを見付ける機会とする。 |
| 15:05～ (5分) | ○アイスブレイク 【参加者同士で自己紹介】 (やり方) ①2人一組で、順番に自己紹介をする。1人1分×2 ②(内容) 自身の名前 / 子どもの紹介 (子ども自慢) | ・隣同士でペアになる。 ・子どものいい所に注目する。 |
| 15:10～ (15分) | ○グループワーク 【Work①「子どもとのかかわりで、低学年の頃と違うな、難しいなと感じていることはありますか？ 具体的にはどんなことですか？」】 (やり方) ①個人作業：ワークシートに記入。2分 ②グループ内で共有 8分 ③発表、全体共有 5分 | ・家庭教育支援プログラムワークシート配布 ・低学年から中学年：子どもの成長／変化を考える。 ・保護者同士で悩みなどを共有する。 ・グループ：ファシリテーター側で指示。 グループサイズ：1グループ4人 ・発表は2～3人に聞く、板書する。 |
| 15:25～ (5分) | ○家庭教育支援ガイドブック「自立した子を育てる 親のかかわり方」を配布、ポイント説明 | 【ポイント】子どもは成長の途上 ①聴く 信頼の積み重ね ②過保護・過干渉・放任しない |

| | | |
|-------------------------|---|--|
| <p>15:30～ (10分)</p> | <p>○グループワーク</p> <p>【Work②「子どもの自立を促すために、あなたが、明日から出来ることは何ですか？」】</p> <p>(やり方)</p> <p>①個人作業：ワークシートに記入。2分 ②グループ内で共有 4分 ③発表、全体共有 4分</p> | <p>・実践につなげるため、保護者としてできる事をシートに記入。できるだけ具体的に書くように促す。</p> <p>・グループ内発表は、記入したものを読み上げるのみ。説明、理由は無し。</p> <p>・発表は2～3人に聞く、板書する。</p> |
| <p>15:40～</p> | <p>○まとめ</p> <p>・家庭教育支援ガイドブック「自立した子を育てる親のかかわり方」、後半部分を説明</p> | <p>【ポイント】親ができること</p> <p>①一緒に考える／選択肢の提示 ②子どもの主体性を奪わない ③承認</p> |
| <p>15:50</p> | <p>○閉会</p> | |

自立した子を育てる 親のかかわり方



日頃から心がけておきたいこと

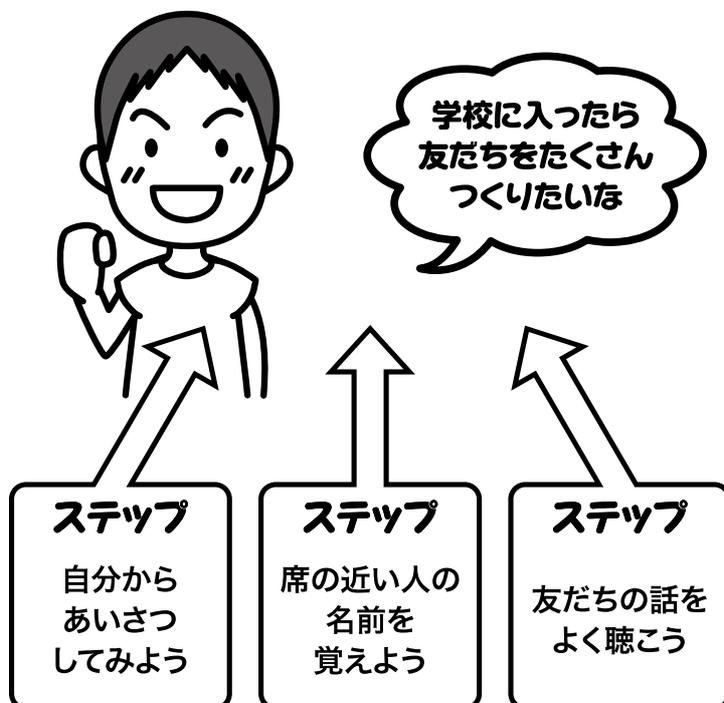


- ★子どもの話をよく聞いて、信頼関係を築きましょう
- ★当たり前のことやできたことをほめて、自信を持たせましょう

**自分からやろうと決めたことを、
親が見守り、
励ます姿勢が大事です**

子どもが自分から「～したい」と言ったときが、
伸びるチャンスです

例えばこんな場合



親ができる手助け



- ① どうしたらできるようになるか、どんなことをがんばるか、相談にのって一緒に考える。

具体的なステップを考える

- ② 自分にできそうなものを子ども自身に選ばせる。

自分でやろうと思わせることがポイント

- ③ ステップが少しでもできたら、ほめて励ます。

励ますことが、またがんばろうという意欲につながる

- ④ 決めたことを達成できたら、がんばった子ども自身をほめる。

**親がさせるのではなく
子どもの「自分でできた!」を大切にする**